

## 第9章 異常水質事故発生状況

## I 概要

異常水質事故とは、公共用水域に汚水、廃液、油等が排出又は廃棄され、水質の著しい汚濁やそれらによる魚介類等への被害が発生することをいう。

異常水質事故の発生場所や原因等により関連部署は多岐にわたっており、本市では、平成30(2018)年4月に策定した「川崎市水質事故対応要領」<sup>※1</sup>に基づき対応している。

※1 平成6(1994)年度～平成29(2017)年度までは、「川崎市異常水質事故対策要領」

## II 対象事故

環境局水質環境課で把握した魚死亡、油浮遊等の異常水質事故

## III 発生状況

### 1 異常水質事故発生件数

#### (1) 種類別事故発生件

令和元(2019)年度に発生した異常水質事故は35件であった。前年度の47件と比べ12件減少した。異常水質事故の種類別では、油浮遊が12件と最も多く、次いで着色水が7件、pH異常が7件、濁水が5件、地下浸透が2件、その他が2件であった。

#### (2) 水系別異常水質事故発生件数(表IX-1)

水系別では、東京湾で20件、多摩川水系で9件、鶴見川水系で6件の異常水質事故が発生した。

東京湾で発生した異常水質事故は、油浮遊が7件、濁水が3件、着色水が1件、pH異常が6件、地下浸透が2件、その他が1件であった。

多摩川水系で発生した異常水質事故は、油浮遊が4件、着色水が2件、濁水が1件、pH異常が1件、その他が1件であった。河川別では、多摩川本川で5件(油浮遊2件、着色水1件、pH異常1件、その他1件)、平瀬川で3件(油浮遊2件、着色水1件)、その他(水路等で発生した事故)で1件(濁水1件)であった。

鶴見川水系で発生した異常水質事故は、油浮遊が1件、着色水が4件、濁水が1件であった。河川別では、矢上川で1件(着色水2件、濁水1件)、有馬川で1件(油浮遊1件)、その他で2件(着色水2件)であった。

表IX-1 水系別異常水質事故発生件数

水系	種類	魚死亡	油浮遊	着色水	濁水	pH異常	その他の水質異常	地下浸透	合計
		東京湾	川崎港運河内		6	1	3	6	1
	川崎港運河外		1						1
	小計		7	1	3	6	1	2	20
多摩川	多摩川本川		2	1		1	1		5
	三沢川								
	旧三沢川								
	平瀬川		2	1					3
	二ヶ領本川・用水								
	五反田川								
	登戸雨水幹線								
	山下川								
	六ヶ村堀雨水幹線								
	宮内雨水幹線								
	その他				1				
	小計		4	2	1	1	1		9
鶴見川	鶴見川本川								
	矢上川			2	1				3
	有馬川		1						1
	渋川								
	麻生川								
	早野川								
	真福寺川								
	片平川								
	江川								
	その他			2					
	小計		1	4	1				6
合計			12	7	5	7	2	2	35

(3) 原因別異常水質事故発生件数(表IX-2)

原因者が判明した異常水質事故は26件で、工場・事業場によるものが22件、建設工事によるものが1件、その他が3件であった。

工場・事業場に起因する22件の異常水質事故(油浮遊2件、着色水5件、濁水4件、pH異常7件、地下浸透2件、その他2件)の原因は、施設の破損が11件、作業ミスが7件、施設の管理不備が3件、火災消火が1件であった。建設工事に起因する1件の異常水質事故(濁水1件)の原因は建築工事であった。また、原因不明の異常水質事故は9件で、油浮遊が7件、着色水が2件であった。

表IX-2 原因別異常水質事故発生件数

原因	種類	魚死亡	油浮遊	着色水	濁水	pH異常	地下浸透	その他の水質異常	合計
	工場・事業場	施設の破損		2	1	1	4	2	1
作業ミス				2	2	2		1	7
施設の管理不備				2		1			3
火災消火					1				1
原因不明									
小計			2	5	4	7	2	2	22
建設工事	下水道工事								
	河川改修・管理								
	水道・ガス工事								
	建築工事				1				1
	道路工事								
	その他の工事								
小計				1				1	
船舶	施設の破損		1						1
	作業ミス								
	施設の管理不備		2						2
	原因不明								
	小計		3						3
その他									
原因不明			7	2					9
合計			12	7	5	7	2	2	35

2 異常水質事故発生状況の経年推移(平成6(1994)年度～令和元(2019)年度)

(1) 異常水質事故発生件数

平成6(1994)年度から令和元(2019)年度までの種類別異常水質事故発生件数を表IX-3に示す。

過去25年間の平均発生件数は38件/年であった。

表IX-3 種類別異常水質事故発生件数経年推移

種類	年度																				合計						
	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013		2014	2015	2016	2017	2018	2019
魚死亡	3	3	4	12	1	0	3	3	1	1	0	0	2	2	0	4	5	4	4	3	3	0	1	3	2	0	64
油浮遊	13	11	13	24	15	11	18	11	14	20	11	21	20	19	21	14	10	14	19	25	17	23	17	14	16	12	423
着色水	3	5	6	8	3	4	9	1	5	6	7	5	27	12	18	38	26	8	21	16	14	18	15	12	14	7	308
濁水	1	2	0	0	3	4	6	5	4	4	1	5	4	7	8	14	4	1	2	2	5	8	4	3	3	5	105
pH異常	3	2	5	4	2	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	1	2	1	7	34
地下浸透	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	6	2	11
その他	1	1	2	2	1	1	1	0	1	4	1	0	0	1	2	3	1	7	2	3	4	2	5	3	5	2	55
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	48	50	44	52	43	38	47	35	1000

(2) 水系別異常水質事故発生件数

平成6(1994)年度から令和元(2019)年度までの水系別異常水質事故発生件数を表IX-4に示す。

水系別発生件数は、海域では京浜運河(49件)、多摩川水系では平瀬川(230件)、鶴見川水系では矢上川(135件)が最も多かった。

表IX-4 水系別異常水質事故発生件数経年推移

水系	年度																			合計									
	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019		
東京湾	川崎港運河外		1		4	1	1				3	1	2	3	4	3	2	1			2	1	3	1	1	2	1	37	
	未広運河						1			1		2			1						1	1						2	9
	田辺運河	2	1	2	2				2	1	1				2	2	1		1	5	1	2	1				1	27	
	大師運河			1			1		1	1	1	3	1	4						1	1		2	2	2	2	6	29	
	京浜運河	2	2	2	3		4	2	1	4			3	1		2		1	1	1	3	4	3	4	1	4	1	49	
	千鳥運河					1		2			2		2				1			1	1	2	1	5	2		1	21	
	塩浜運河	1	3	1							1		1	1	1				4			1	1	2	1			18	
	池上運河	1		1						1	2		2			1						1						9	
	夜光運河		1																							3	1	5	
	水江運河			1												1									1			3	
	浅野運河				1				1	2	1			1			1				1			1				10	
	桜柳運河					1				2						2												1	7
	南渡田運河						1							1	2											3	2	1	10
	白石運河											1	2					1				1						1	6
	川崎航路							1								1									1			1	4
	境運河												1	1													1		3
	多摩運河																											1	3
小計	6	8	8	10	3	8	5	5	12	10	8	13	12	12	11	6	2	8	9	11	11	11	16	11	16	18	250		
多摩川	多摩川本川				3	2			1	5	2			1	5	5	5	7	2	1	4	2	2		2	5	54		
	三沢川		1	1	1	3		2	1	1	1				2	2	4	1	1	1	2	2		1	2		29		
	旧三沢川		1								1		1								1	2						6	
	平瀬川	5	4	9	7	5	5	1	4	2	6	5	6	23	8	16	34	14	10	11	11	11	15	5	4	6	3	230	
	ニヶ領本川・用水	6	6	2	8	3	2	5	5	1	2	4	4	3	3	3	1	3	3	2	2	3	5	5	2	2		85	
	五反田川	1			2	1	1	2	2				2	2	1		1	1	1	4	2	2	4	7	4	2		42	
	登戸雨水幹線	1			1	1						1																4	
	山下川						2									1	1	1		1						1		7	
	六ヶ村堀雨水幹線				1		2												1		1							5	
	宮内雨水幹線			1				1			1						1											4	
その他				2			2	1						1											6	4	1	17	
小計	13	12	13	25	15	8	17	14	9	13	10	13	30	19	27	48	27	17	21	22	22	26	18	18	17	9	483		
鶴見川	鶴見川本川				1	1	1	1					1		1		3		1									10	
	矢上川	2	4	4	6	4	1	5	2		10	2	2	8	6	6	10	11	7	5	9	8	11	5	3	1	3	135	
	有馬川			1	3		4		2		1		3		1	3			4	2		2			1	2	1	30	
	渡川	1		1	1			1	1									1								1		7	
	麻生川			1	3		1	1	1	1					2	3	2	4	2	3	2	2	1	1				30	
	早野川			1			1						1		1											1		5	
	真福寺川	1			1	1					1		1			1	1			1	2							10	
	片平川	1		1				1					1					1		1	2		1	2	2	1		14	
	江川					1		1																1				3	
その他							1											1	4		1					4	2	13	
小計	5	4	9	15	7	4	15	2	4	12	3	6	11	10	11	19	17	11	18	17	11	15	9	8	8	6	257		
地下浸透	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	2	10		
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	48	50	44	52	43	38	47	35	1000		

(3) 原因別水質事故発生件数

平成6(1994)年度から令和元(2019)年度までの原因別異常水質事故発生件数を表IX-5に示す。

原因不明の異常水質事故は過去26年間で平均23件/年であり、全体の59%となっている。

表IX-5 原因別異常水質事故発生件数経年推移

原因	年度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
工場・事業場	施設の破損	1	6	2		1	2	1	2	2	1	1	2		1	1				1	2	3	2	1	9	11	52	
	作業ミス	6		3	5	2	5	7	1	2	6	4	6	5			2	2	4	1	3	1	3	4	2	5	7	86
	施設の管理不備		4	3	5	1		5	3	4	3	1	2	3	1	1	3		3	3	9	7	2	4	11	7	3	88
	火災消火			1	1										1							2					1	6
	原因不明																		1				1		1			3
	小計		7	10	9	11	4	7	13	6	8	10	6	10	8	3	2	5	2	8	4	13	13	8	10	15	21	22
建設工事	下水道工事	1				1	1	1	1						2	1	2				1							11
	河川改修・管理		1	1		3					1	1		1						2		1			1			12
	水道・ガス工事									1						1	2				1							5
	建築工事			1		1		2			1		3	1	2	3	5		2	2	3	2	1	1		2	1	33
	道路工事				1				1	1			1					2				1	2					9
	その他の工事													2	2					3	1							8
小計		1	1	2	1	5	0	3	2	3	2	1	4	4	6	5	11	0	5	5	6	5	1	1	1	2	1	78
船舶	施設の破損		1	1	3	1	2			1	3	2	1	2	1						1		1	2			1	23
	作業ミス		1			1	1			2			1				1		1	2	1		1	1				13
	施設の管理不備													1				1						1			2	5
	原因不明													1										1				2
小計		0	2	1	3	2	3	0	0	3	3	2	2	4	1	0	1	1	1	2	2	0	3	4	0	0	3	43
その他		1	1	3	5	4	0	2	2	2	3	1	2	0	2	1	0	1	2	2	5	2	2	5	2	3	0	53
原因不明		15	10	15	30	10	10	20	11	9	17	11	14	37	29	41	56	42	20	35	24	24	38	23	20	21	9	591
合計		24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	48	50	44	52	43	38	47	35	1000

### 3 異常水質事故発生状況一覧

令和元年度に発生した異常水質事故の発生状況の一覧を表IX-6に示す。

表IX-6 異常水質事故発生状況一覧

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名 ①調査 ②回収等対策 ③工場等指導	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他				
4/10 ・ 4/10	4/10	東京湾	白石運河	川崎区		○		①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 海上保安庁 ②なし ③港湾局港湾管理課	判明  不明	白河運河で個人所有のボートが転覆し、エンジンオイルが流出したと連絡を受け、現地確認を行ったが海面にオイル等は確認できなかった。	関係機関が指導を行った。
4/12 ・ 4/12	4/12	東京湾	多摩運河	川崎区		○		①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 消防局臨港消防署 ②なし ③港湾局港湾管理課	判明  不明	多摩運河に油が浮遊(3m×100m)との連絡を受け、現地調査を行った。原因は個人所有のボートが転覆したことによる燃料の漏えいであった。陸上から消防署が放水拡散を行った。	関係機関が指導を行った。
4/18 ・ 4/18	4/18	鶴見川	水路	宮前区 土橋			○	①環境局水質環境課 宮前区道路公園センター ②なし ③なし	判明  不明	水路に白濁水が流れているとの連絡を受け、現地調査を行ったが白濁水は流れておらず、発生源の特定には至らなかった。	
4/18 ・ 4/18	4/18	鶴見川	水路	宮前区 土橋			○	①環境局水質環境課 高津区道路公園センター ②なし ③環境局水質環境課	判明  不明	緑色の液体を水路に流している跡があることを確認し、現地調査を行った。調査の結果、事業者が作業で使用するインクの洗浄水が水路に流れていることが分かった。事業者には着色水を公共用水域に流したことに対する報告書の提出と、放流先の変更等を検討するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
4/26 ・ 4/26	—	東京湾	京浜運河	川崎区扇町			○	①臨港消防署 環境局水質環境課 環境局大気環境課 ②臨港消防署 ③なし	判明  不明	付近で火災があり、2次延焼した事業所から、燃料の木くずや煤等が消火活動の放水などによって海域に流出した。油水分離槽を通してため、固形物の流出はある程度防げた。排水口にはオイルフェンスを設置し、濁水はオイルフェンス内で止めるようにした。魚浮遊等の公共用水域への明らかな影響は見られなかった。	

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ 他	①調査 ②回収等対策 ③工場等指導			
5/20 ・ 5/20	—	東京湾	大師運河	川崎区浮島町			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明  不明	事業者から汚濁した水を公共用水域に流出させてしまったと連絡があった。排水を止めずに排水処理施設の清掃をしたため、ブロックが越流してしまったとのことだった。事業者に対し、再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
5/22 ・ 5/22	5/22	東京湾	夜光運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 港湾局港湾管理課 海上保安庁 ②海上保安庁 ③なし	判明  不明	夜光運河で油が浮いていると連絡を受け、現地確認を行った。海上保安庁が放水による油の拡散を行った。油の発生源は不明であった。	
6/19 ・ 6/19	6/19	多摩川	宿河原幹線下水路	多摩区宿河原			○	①環境局水質環境課 多摩道路公園センター 北部下水道管理事務所 下水道水質課 ②なし ③環境局水質環境課 北部下水道管理事務所	判明  不明	宿河原幹線下水路から多摩川に濁水が流出していると連絡を受け、現地確認を行った。調査の結果、建設現場の濁水が側溝に排水されていることが分かった。S S等公共用水域への排水基準を満たせないと考えられたため、建設業者には下水道に排水するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
6/21 ・ 6/21	6/21	多摩川	平瀬川	高津区久地			○	①環境局水質環境課 高津道路公園センター ②なし ③なし	判明  不明	平瀬川に油が浮いていると連絡を受け現地確認を行った。現地確認を行ったがすでに油はほとんど流れきっており、発生源の特定には至らなかった。	
6/27 ・ 6/27	6/27	東京湾	川崎港	川崎区			○	①環境局水質環境課 臨港消防署 ②なし ③環境局水質環境課	判明  不明	事業者から、配管ラックから軽油が漏えいしたと連絡を受けた。海上にも漏えいしたため、事業者がオイルフェンスを設置し、軽油の回収を行った。	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名 ①調査 ②回収等対策 ③工場等指導	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
		水域名	派川名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
6/17 ・ 6/17	6/17	東京湾	浅野運河	川崎区		○		①環境局水質環境課 廃棄物指導課 ②消防局臨港消防署 ③環境局水質課	判明 不明	事業場の油圧式重機の配管が破損して、作動油が600L程度噴き出した。場内の重機及び事業場外の道路等に飛散したほか、雨水配管から海にも流出した。道路に飛散した油は消防署が砂で回収した後道路洗浄をした。事業所内の油水分離槽にはオイルマット等を設置し、油の回収に努めさせ、再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
6/24 ・ 6/25	—	鶴見川	矢上川	幸区			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業場の処理施設に異常が生じ、さらに降雨等で流入水量が増えたため汚泥が越流した。事業場には再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
7/11 ・ 7/11	7/11	多摩川	多摩川	川崎区		○		①環境局水質環境課 消防局臨港消防署 国土交通省京浜河川事務所 ②なし ③なし	判明 不明	川で油が浮いていると通報を受け、現場を調査したが、発生源の特定には至らなかった。京浜河川事務所が油処理剤による処理を実施した。	
— ・ 7/16	—	東京湾	大師運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業場がタンクヤードにおいて、原油が漏洩しているのを発見した。ヤード内は土質であり、埋設配管から漏洩した原油が浮いたと思われるが、公共用水域への漏洩は確認されていない。いつから漏洩しているかは不明。事業場には再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	①調査 ②回収等対策 ③工場等指導			
7/19 ・ 7/19	8/19	東京湾	桜堀運河	川崎区		○		①港湾局港湾管理課 環境局水質環境課 ②なし ③なし	判明  不明	運河に繋がる配管から油が漏れていると通報があった。船舶停泊施設を確認したが特に問題はなく、近くの事業場の雨水配管も確認したが、潮位の問題もあり油等は確認できず発生源の特定には至らなかった。	
7/23 ・ 7/23	—	東京湾	大師運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 ②中原区役所道路公園センター ③環境局水質環境課	判明  不明	事業場の製造装置の配管が破損し、蒸留の熱媒体に使っている薬品が場内に漏洩、降雨のために雨水系統に混入し、排水口に流れ込んだことによりpH異常が生じた。事業場には再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
8/8 ・ 8/8	8/22	多摩川	多摩川	中原区 等々力			○	①環境局水質環境課 高津区役所道路公園センター 中部下水道事務所 ②なし ③環境局水質環境課 高津道路公園センター 中部下水道事務所	判明  不明	道路側溝に白い堆積物がたまっており苦情があったため調査したところ、事業場から側溝に白濁水が排出されておりそれが原因と判明した。側溝等の清掃を原因者の負担で実施する必要があること、再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した	関係機関が指導を行った。
8/14 ・ 8/15	—	多摩川	多摩川	高津区			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明  不明	事業者から、スクラバーの汚水を中和する薬剤ポンプが破損し、水酸化ナトリウムが屋上に飛散したと連絡があった。雨水系統の配管まで達しており、雨水とともに公共用水域へ流出したとのこと。再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	①調査 ②回収等対策 ③工場等指導			
8/30 ・ 8/30	8/30	鶴見川	有馬川	高津区		○		①環境局水質環境課 高津区役所道路公園セン ター 消防局高津消防署 ②なし ③なし	判明  不明	川に油浮遊があると通報を受け、現地調査を行ったが、すでに油が流れてしまっていて発生源の特定には至らなかった。	
9/6 ・ 9/6	—	多摩川	多摩川	川崎区		○		①環境局水質環境課 川崎区役所道路公園セン ター 臨港消防署 神奈川県警 東京消防庁 海上保安庁 ②東京消防庁 海上保安庁 ③なし	判明  不明	川に油浮遊があると通報を受け、現地調査を行った。海上保安庁と川崎消防庁が船で航走拡散処理を行った。発生源の特定には至らなかった。	
9/29 ・ 9/29	9/29	鶴見川	矢上川	宮前区 野川			○	①環境局水質環境課 宮前区役所道路公園セン ター ②なし ③なし	判明  不明	川が白い泡に覆われている、という通報を受け、現地調査を行ったが、白い泡が流れていた形跡が見られず、発生源の特定には至らなかった。	

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	①調査 ②回収等対策 ③工場等指導			
10/12 ・ 10/13	—	東京湾	川崎港運 河外 (東扇島 周辺)	川崎区		○		①海上保安庁 川崎海上保安署 ②海上保安庁 ③なし	判明  不明	東扇島沖において、パナマ船籍の貨物船が沈没し、重油が周辺海域に流出した。海上保安庁や海上保安署等が救助作業や油の流出状況等の確認、拡散作業等を行い、最終的に業者が12月に油止め作業を行った。油止め作業が終了したため、大量の油流出の恐れはなくなった。	
10/15 ・ 10/15	10/16	多摩川	多摩川	高津区			○	①環境局水質環境課 環境局廃棄物指導課 ②高津区道路公園センター ③環境局水質環境課	判明  不明	台風19号により市内のめっき工場及び廃棄物処理業者の浸水被害が確認されたため、有害物質の流出について調査を行った。(川崎区、中原区、高津区)。工場周辺の土壌の溶出水や溜まり水等を調査したところ、高津区の工場周辺の溜まり水1地点において、排水基準値以下の濃度で6価クロムが検出された。溜まり水は回収した。その他の地点からは有害物質は検出されなかった。調査結果を市ホームページに掲載し、市内の金属表面処理、めっき工場に対して有害物質の適正管理に関する依頼文を送付した。	関係機関が指導を行った。
10/26 ・ 10/26	—	東京湾	大師運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明  不明	事業所がタンクから重油が漏れいしているのを発見した。タンクの弁が緩んでいたため、閉止し漏えいを停止させた。公共用水域への漏洩は確認されなかったが、土壌への漏洩が確認された。事業場には再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
11/6 ・ 11/6	11/6	鶴見川	矢上川	宮前区			○	①環境局水質環境課 宮前道路公園センター ②なし ③環境局水質環境課	判明  不明	川に泡水が流れているとの通報を受け調査したところ、事業場が泡水を雨水配管に流し、そこから水路を流して川に流出したことが判明した。事業場には雨水管に泡水を流さないよう指導し、再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他	①調査 ②回収等対策 ③工場等指導			
11/7 ・ 11/7	—	東京湾	末広運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明  不明	事業場から、排水処理施設の不具合へ対応する際、ミスがあり、全室素を排水基準値を超えた値で公共用水域に排水してしまったと連絡があった。対応として排水処理を停止し、原因となったホース等を洗浄することで正常な処理に戻った。事業場には再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
1/9 ・ 1/10	—	東京湾	大師運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明  不明	事業場が pH を基準超過した状態で排水してしまった。ボイラーを洗浄する作業を行う際に、誤って最大で pH10 程度の水を流してしまったことが原因であった。事業場には再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
1/17 ・ 1/17	1/17	多摩川	平瀬川	宮前区			○	①環境局水質環境課 宮前区役所道路公園 センター ②なし ③環境局水質環境課	判明  不明	平瀬川で白濁水が流れているとの通報を受けて調査したところ、事業場が水性塗料の容器を洗浄した排水を側溝に流してしまったことが原因であった。事業所には、洗浄水であっても側溝に流さないよう指導し、再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
1/23 ・ 1/23	—	東京湾	大師運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明  不明	事業場が金属項目で排水基準値を超過した状態で排水をしてしまった。点検作業中に排水処理施設の薬品の注入に不備があったことが原因であった。事業場には再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
2/20 ・ 2/20	—	東京湾	大師運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明  不明	事業場が pH を基準超過した状態で排水してしまった。配管が老朽化しており、その部分から最大で pH11 程度の水を流してしまったとのことが原因であった。事業場には再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。

発生・ 受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			措置機関名 ① 調査 ② 回収等対策 ③ 工場等指導	原因者 判明区分	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者に対する措置 原因者の措置の概要 等
		水域名	派川名	場所等	魚 死 亡	油 浮 遊	そ の 他				
2/28 ・ 2/28	—	東京湾	南渡田運河	川崎区扇町			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業者からpH9程度の水を海に流出させてしまったと連絡があった。排水路の一部に破損があったことで高pHの地下水が混入してしまったことが原因であった。事業者に対し、再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
2/29 ・ 2/29	—	東京湾	末広運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 川崎海上保安署 環境局廃棄物指導課 ②なし ③環境局大気環境課 環境局水質環境課 環境局廃棄物指導課	判明 不明	事業者が黒い水を海域に排水してしまった。廃液焼却炉に不備があり、排水処理施設内の水が着色してしまったことが原因であった。着色水は、海上保安署が船で拡散した。有害物質項目が基準値を超過した可能性もある。事業場には再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
3/14 ・ 3/16	—	東京湾	大師運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業場がpHを基準超過した状態で排水してしまった。事業場内の工事中の地盤に雨が降ったことによりアルカリ性の水が海域に流出したことが原因であった。事業場には再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
3/16 ・ 3/16	—	東京湾	千鳥運河	川崎区			○	①環境局水質環境課 ②なし ③環境局水質環境課	判明 不明	事業場がpHを基準超過した状態で排水してしまった。作業ミスによりNaOH溶液が排水系統に流れてしまったことが原因であった。事業場には再発防止策を記載した報告書を提出するよう指導した。	関係機関が指導を行った。
3/30 ・ 3/30	3/30	多摩川水系	平瀬川	宮前区			○	①環境局水質環境課 宮前消防署 ②宮前消防署 ③なし	判明 不明	平瀬川で油が流れているとの通報を受けて調査したが、現場に到着した時にはすでに油は流れていなかった。溜まっていた油を消防職員がオイルマットで回収した。上流の雨水配管等を確認したが、油の痕跡は無く、追跡はできなかった。	
合計					0	12	23				